

# 生き生き井田川

2020年5月13日発行 井田川小学校学校運営協議会  
【連絡先】井田川小学校 TEL 82-2021

## コミュニティ・スクールとして認定されました

4月23日(木)井田川小学校学校運営協議会立上式が行われ、教育長より学校運営協議会会長に認定証が渡され、各委員には委嘱状が交付されました。今年度より井田川小学校はコミュニティ・スクールとして動き出します。



### 〈教育長より〉

めでたく井田川小学校学校運営協議会がスタートしました。学校と保護者及び地域の方との間の信頼関係を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりを実現されるように願います。

### 〈会長より〉

子どもにとって通ってよかった、保護者にとって通わせてよかった、地域の人にとって誇れる井田川小学校にするために、子どもと保護者と先生と地域が一丸となって相手を思いやれる優しい心を育み、心豊かな学校を作っていきたいと思ひます。

### 〈校長より〉

通算11年目の井田川小学校勤務になりました。その時々課題があり、PTAや地域の方に協力していただきました。今後はさらに地域と共にある学校を目指したいと思ひます。子どもへの熱い思いにあふれた地域、PTA、ボランティアのみなさんと学校とが力を合わせて、よりよき井田川小学校に発展していくことを願っております。

## 令和2年度学校運営協議会委員

- 〈会長〉 山口 勝美 (井田川南まちづくり協議会代表・見守り隊)
- 〈副会長〉 中尾 勝義 (井田川北まちづくり協議会代表) 内藤 龍介 (PTA代表)
- 〈委員〉 榎谷 英一 (井田川北まちづくり協議会代表・井田っ子スマイルコーディネーター)
- 宮村 佳代子 (井田川小学校PTA会長) 野呂 千尋 (PTA代表)
- 南牟礼 真理 (井田っ子スマイル講師) 近藤 保行 (防災ボランティア)
- 打田 善行 (見守り隊) 佐藤 典子 (主任児童員)
- 佐熊 秀樹 (放課後児童クラブ職員) 徳田 浩一 (中部中学校校長)
- 高嶋 浩史 (井田川小学校校長) 坂崎 功将 (井田川小学校教諭・CS担当職員)

## 第一回学校運営協議会を開催しました

4月23日(木)初めての学校運営協議会が開かれました。子どもの豊かな育ちと学びを創造するためには、学校と地域の人々(保護者・地域住民等)が目標を共有し、一体となって教育活動に取り組むことが大切です。



コミュニティ・スクールになったことで、学校と地域の人々が「こんな子どもを育てたい」という『めざす子ども像』に向かって、熟議と協働を重ね、学校運営にとも参画することができます。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって、特色ある学校づくりを進めていきたいと思います。



〈熟議〉  
学校と地域の人々が集まって、共通の課題について熟慮・議論することにより、互いの立場の理解を深めるとともに、課題の解決に向けた、より良い教育活動への提案や自分の役割を認識すること。

〈協働〉  
学校と地域の人々が共通の目標に向かって、互いを尊重し、補い合い、パートナーとして一緒になって力をあわせて活動していくこと。

# 令和2年度 学校経営ビジョン

かめやましりつ い だがわしょうがっこう  
亀山市立井田川小学校

## I 学校教育目標

生き生き 笑顔で つながって  
～自ら学び つながり 心豊かにたくましく生きる 井田川っ子の育成～

## II めざすビジョン

### <めざす子ども像>

自己実現のために、自ら進んで意欲的に  
学習や生活をする子ども

- ・学び合い、想いを伝え合う子ども
- ・認め合い、励まし合い、思いやりのある子ども
- ・命を大切に、健康で明るい子ども
- ・決まりやルールを守り、ねばり強く最後までやりぬく子ども
- ・地域のよさを感じ、未来に向けたたくましく生きる子ども

### <めざす教職員像>

学びの充実を通し、未来を創造する教職員

- ・子どもの想いに寄り添い、ともに生きる教職員
- ・指導力向上を目指し、意欲的に取り組む教職員
- ・保護者・地域と積極的にに関わり、信頼関係を築いていこうとする教職員
- ・組織としての意識を持ち、責任感・助け合いのある教職員
- ・効率的な業務遂行を心がけ、勤務時間縮減に努める教職員

### <めざす学校像>

あいさつで、笑顔があふれる学校

- ・確かな学力を育てる学校
- ・一人ひとりの子どもが大切にされる学校
- ・よろこびを明白につなげる学校
- ・職員が働くよろこびを感じる学校
- ・「地域とともにある学校づくり」をする学校

## III 重点目標

- (1)学力向上を図り、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを推進します。
- (2)部落差別をはじめとする様々な差別に気づき、解消に向け行動する実践力を育成します。
- (3)人権を尊重し、仲間とともにつながり合い、高まり合う仲間づくりを進めます。
- (4)個性を尊重し、社会性の基礎を培う適切な指導・必要な支援を進めます。
- (5)家庭・地域と連携し、健康の増進や体力の向上を図る教育活動を進めます。
- (6)学校運営協議会を核にして、保護者や地域とともに、井田川地区のよさを活かした「地域とともにある学校づくり」を進めます。
- (7)教職員の同僚性を高め、働きやすい職場環境づくりを進めます。

## IV 今年度キャッチフレーズ（合言葉）

進んでチャレンジ 笑顔いっぱい 井田川っ子

### 《委員より》

（質問）学校経営ビジョン〈めざす子ども像〉の中で「学び合い、想いを伝え合う子ども」とあるが、おもいをこの漢字にした理由は？調べると、思い＝論理的な気持ちや考え、想い＝主観的なイメージ・心の中で考えること、とある。みんなでも共有するために確認したい。

（回答）より強い願いを示すためにこの想いにしました。たくさんのおもいを含んでいます。思考・気持ち・モチベーションなどです。

## 今後のコミュニティ・スクールの構想

- (1)目指すビジョンを共有し、将来の学校・地域像を策定
  - (2)学校ボランティアの効果的なコーディネートと拡充（R2年度中に学校支援専門部会を組織）  
既存ボランティアの拡充と新規ボランティアの導入。情報交換および意見交流する場の設定。  
<学習支援>「ほめほめ隊」「授業お助け」「図書館」「井田っ子スマイル学習教室」など  
<環境整備>「米づくり」「花づくり」「畑づくり」「清掃活動・休み時間の児童見守り」など  
<登下校の見守り>「83（はちさん）運動の推進とボランティアの拡充」「登下校指導との連携」
  - (3)生活科・総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメント  
井田川小校区の地域学習人材バンクを設置し、要請に応じて活動する仕組みをつくる。
  - (4)子ども・家庭支援ネットワークの充実と人権啓発の推進  
多様性を尊重し、共生の視点での学校・地域づくりに取り組む。
  - (5)井田川小を核とした地域課題の改善と学校教育活動の充実をクロスさせる取組を推進  
地域ボランティアの大幅拡充を図り、防災教育を地域と共に推進する。
  - (6)教職員の働き方改革につなげる視点での環境整備、行事や活動の精選を進める
  - (7)地域ルームの設置（地域の方からの切実な要望）  
校内に学校ボランティアや地域の方が気軽に集える場の設置を市へ要望する。
- 今年度の重点取組
- ①地域と協働した防災教育の推進
  - ②学校支援専門部会の設置・ボランティアの組織化
  - ③開かれた教育課程の充実に向けた協働

### 《委員より》

- ・（意見）ボランティアを組織化する前にすでに活動しているボランティアをとりまとめ今までの活動の経緯や課題など聞き取るなどすると人材バンクの活用もスムーズにいくのではないかと。
- ・（意見）防災教育を子どもたちと地域が一緒に行うのはとてもいいと思う。地域の要望として、高齢化が課題の地区があるが、子どもと一緒に活動することは、高齢者にとって心の癒しや安心になる。防災以外にも年に何度か子どもたちと地域の人が一緒に活動する機会を作ってもらえれば子どもの成長にも繋がるのではないかと。
- ・（意見）コロナウイルス感染拡大のため自粛モードになり、できれば家庭で保育したいが仕事を休むことができないため通わせる親も辛い心境になっている。
- ・（意見）子どもだけで留守番をしている家庭もある。休校中ずっと公園で遊んでいる子もいる。昼ご飯を食べているか心配。三密は避けなければいけないが、行き場のない子どもたちの居場所も考えてほしい。夏休みなどの長期休業中も同じ。
- ・（意見）家で自粛していてストレスがたまっている子どもたちのケアを考えると、担任の先生から電話や訪問で声をかけてもらおうと子どもたちの気持ちも晴れ元気になる。工夫して子どもや保護者と繋がってほしい。  
（回答）教師も子どもたちの声を聞き顔を見ると元気が出る。家庭訪問などを通じて、スクールカウンセラーの紹介や、いつでも相談にのるので学校に連絡をと伝えていきます。

### 《校長より》

新学期が始まり6日間しか学校に通えませんでした。しかし、いつも以上に学校に来る喜びを感じてくれたことと思います。早くコロナが終息することを願いつつ、休校が続くことも見据えて、学校としてできることを努力していきたいと思っています。